

専門科目：政治経済学（マルクス経済学原論を含む）

次の問題1から4までのなかから、2題を選択して解答しなさい。

問題1

資本主義経済の特徴について、①その形式に着目すると、「商品と貨幣という市場関係」が、②その内容に着目すると、「労働指揮・統括権という支配・従属関係」が浮かび上がる。①と②について、それぞれどのようなことか説明しなさい。①と②両者の相互関係にも言及すること。

問題2

先進国の経済は、各国とも低成長期に入り、「成熟経済」、「長期停滞」、「脱成長」、あるいは「定常状態」など、資本主義経済の長期的発展にかかわる概念が提起されている。こうした長期的発展について、①「利潤率の傾向的低落の法則」から説明し、②新たな経済社会発展像を自由に構想しなさい。

問題3

近年、市場経済と社会の関係が議論になっている。例えば、経済史においては、「非西洋社会」や「近代以前」を射程に含めるグローバル史が登場し、経済領域はもともと社会に「埋め込まれた（embedded）」ものと考えている。一方で、市場経済は独立して動くという立場もある。それぞれどういうことなのか、日常生活を具体例に、いずれかの立場から説明しなさい。

問題4

政治経済学者スーザン・ストレンジは、その著書『国家の退場』（邦訳1998年）において、グローバル化の進展と反比例して国家の機能や権限が縮小する、と論じている。これに対して、近年の欧州やアメリカ合衆国などでは、「国家の再登場」と呼びうる現象も生じている。グローバル化と国家の関係について、具体例を挙げて、以下のキーワードから3つ以上を選んで論じなさい（選んだキーワードには、解答中で下線を引くこと）。

キーワード：自由貿易、保護貿易、経済摩擦、構造調整、資本自由化、多国籍企業、経済・通貨統合、福祉国家、環境問題、移民、格差問題。